

## 第6回神奈川県地方創生推進会議議事録

名 称：第6回神奈川県地方創生推進会議

開 催 日 時：平成28年1月27日（水曜日） 午前10時00分から11時40分まで

開 催 場 所：県庁 本庁舎3階 大会議場

出 席 者： 牛山久仁彦、 齊藤英和、 浦川竜哉、 大橋由紀子、 柏木京子、 加藤久和、  
ジギャン・クマル・タパ、 露木徳行、 富田幸宏、 富山英輔、 畑野耕逸、 平井  
竜一、 平松廣司、 三崎幸恵、 若生正之、 秋山怜史、 石本宇、 桂由佳〔計18  
名〕(順不同)( は座長、 は副座長)

次回開催予定日：平成28年9月頃

問い合わせ先：政策局政策部総合政策課政策調整グループ 星野春雄

電 話 (045)210-3056（直通）

ファクシミリ (045)210-8819

経過：

### 1 開会

平井政策部長：おはようございます。定刻となりましたので、まだ若干お見えになっていない委員もいらっしゃいますけれども、ただ今から第6回神奈川県地方創生推進会議を開催させていただきたいと存じます。それでは早速ですが、牛山座長、よろしくお願いたします。

### 2 議事

議題1 神奈川県人口ビジョン（案）について

議題2 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

牛山座長：本日もよろしくお願いたします。まず、議事に入ります前に、委員の変更をお知らせしたいと思います。日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会会長でいらっしゃいました石井様が会長を退かれたために、新たに会長に選出されました武藤様に本会議の委員にご就任いただいておりますので、よろしくお願いたします。なお本人は、本日はご欠席です。お手元に神奈川県地方創生推進会議の名簿をお配りしておりますのでご参照ください。

また、ルース・ジャーマン・白石委員が、ご氏名の変更がございまして、ルース・マリ－・ジャーマン委員というふうにお名前変更になりますのでよろしくお願いたします。なお、ジャーマン委員も本日はご欠席でございます。名簿をご確認お願いたします。

それでは議事に入りたいと思います。当会議、皆様本当に大変お忙しい中を、昨年6月4日にスタートして、これまで5回にわたって会議を開催してまいりました。今回、これまでいただきましたご意見、それからパブリックコメントのご意見、これを踏まえまして、人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の案として事務局よりお示ししていただいております。本日もご議論いただきました結果・内容につきましても今後、人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の案に反映し、2月になりますと県議会へのご報告、そして3月に人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定という運びと

なります。そのため、本日が策定前の会議としましては最後ということになりますので、ご議論のほど、よろしくお願いいたします。

お手元に地方創生推進会議の次第がございますけれども、この議題1と、議題2、この両方につきまして事務局から、人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の案、そして昨年の12月から1月にかけてございましたパブリックコメントの概要について、30分ほどお時間を取っていますから、ご説明及びご報告をいただき、皆様と議論してまいりたいと思います。それでは事務局、よろしくお願いいたします。

(中谷総合政策課長から資料1、資料2及び資料3について説明)

牛山座長：ご議論はこの後是非お願いしたいと思うのですが、今のご説明いただいた点について何かご不明な点や、ご質問がありましたら、そちらの方だけまず伺いたいと思いますが、事務局の今の説明について何か疑問点、ご質問いかがでしょうか。

畑野委員：まち・ひと・しごと創生総合戦略の4ページ目と5ページ目のところで未病について大変詳しくご説明をいただきました。ありがとうございます。5ページ目の未病の定義が入っていきまして、これは非常に分かりやすいと思います。その中で、未病の定義としまして、健康と病気の間で連続的に変化しています。こうした変化の過程を未病と呼ぶと考えると、例えばビジョン3の「未病の取組みによる」という表現というのは正しいのかなと。例えば「未病への取組み」とか「未病対策の取組み」とか「未病対策への取組み」とか、そういうような表現の方が。あるいは5ページ目の中ほどの、こうした「未病」の取組みを全力で推進する、という表現よりも「未病への」みたいな方がいいのではないかなと思ったもので、その辺のご見解があればお聞かせください。

牛山座長：はい。それではご質問という形、とりあえず「未病の取組み」という表現で、これは何かございますか。

二見政策局長：おはようございます。政策局長の二見です。ただ今ご指摘の注釈のところを見ていただいて、健康な状態に近づく取組みを「未病を治す」という表現をしていますと書いてありまして、未病に「」をくくった意味として、未病という単語ではなくて未病を治すという意味合いを含めて「未病」と、この本の中では両方で使ったりしている。少しその辺が分かりにくいかもしれませんが、未病という状態ではなく、未病を治すという意味を込めて「未病」と読んでいただくとありがたいという作りになっているところですよ。

畑野委員：はい、分かりました。

牛山座長：はい。もしまた後ほど、こうした方がいいというご意見があれば伺わせていただきたいと思います。事務局としてはそういうお考えだということです。ほかに何かご質問、ございますか。

タバ委員：同じページのこの 3 ですね。この C H O とあるのですけれども、これは Health とか、頭文字が何かから取っているのかどうかという英語がもしあれば教えてください。

中谷総合政策課長：こちらはおっしゃるとおり英語の略でございます、Chief Health Officer 構想の略称です。

牛山座長：はい。ここに書いておいていただきたい。

大橋委員：県民に分かりやすいように注意書きなど修正を加えられたということですが、未病に関することはすごく詳しく 1、2、3 となっているのですけれども、14 ページ、ロボット産業のところなどでは、IoT や AI という言葉などはやはり注意書きが必要ではないのかなと感じます。基準があるのでしたらお教えいただきたいと思います。

中谷総合政策課長：ご指摘ごもっともですので、こちらにも注意書きを入れさせていただきますと思います。

牛山座長：できるだけ分かりやすくという点では、そういう点があればまたご意見いただければと思います。ほかにはご質問はよろしいでしょうか。

石本委員：非常に分かりやすくなっているかなと感じております。33 ページ以降、「若者」というキーワードが出てくる機会が多いかと思うのですけれども、こちらも若者の定義というか、何歳ぐらいからという目安ないし、そういったものがあるのかどうかということについてお伺いできればと思います。よろしく願いいたします。

中谷総合政策課長：定義はあります。ただ今手元に資料がないので、何歳までということ具体的には申し上げられないのですけれども、若者という定義は後ほどお答えしたいと思います。

牛山座長：そういったのは注があったり説明があったりするべきというお考えかもしれませんが、またそれも後ほどお答えいただいて考えていただきたいと思います。質問についてよろしいでしょうか。

もしもまた何かご不明の点が出てきたら、そのときに言っていただければいいと思いますが、それではただ今の説明いただいた内容を踏まえまして、本日の議論に入っていきたいと思います。いつものように大変恐縮でございますが、多くの皆様からご意見をいただきたいと思いますので、ご発言いただく際は概ね 3 分程度を目安に簡潔にいただければと思いますので、よろしく願いいたします。それではご意見がございましたら是非いただきたいと思いますが、よろしく願いします。

秋山委員：36、37 ページを開いていただきたいのですけれども、37 ページのK P Iのところで、放課後児童クラブとか放課後子ども教室数についても目標数値が書かれてはいるのですけれども、36 ページの、主な取組みには、例えば学童であるとか放課後児童クラブという文言がないのですけれども。確かに保育園とかの方が見聞しやすいというのはあるのですけれども、やはり子育てと仕事の両立に関しては、小学校に上がった時点での、やはり小1の壁という部分も非常に大切なので、せっかくK P Iに挙げていただいているのであれば、この主な取組みの方にもそうしたものを取り入れた方がいいのではないかなというのが一つ気になったところです。

あと、34 ページの結婚に向けた機運の醸成のところなのですけれども、「恋カナ！」というサイトのビュー数がK P Iとして取り上げられていますが、以前、石本委員からの発表のときに、ロールモデルをしっかりと見せてあげることが若者にとってはとても大切だという提言があったと思うのですけれども、そうした結婚をして子育てをして、しっかりと働いていく、共働きをしていくという部分のロールモデルをしっかりと提示してあげるといふ部分も加えられると、非常に優しいのかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

牛山座長：はい、ありがとうございます。ご意見いただきまして。主な取組みといつたところとK P Iの関係ですね。もちろん全て取組みの内容についてK P Iが立っているわけではないかと思うのですが。あるいはその中身が入っているところがあるかと思うのですが、その考え方といいますか、整理していただければと思いますが、いかがでしょうか。

中谷総合政策課長：まず考え方といたしましては、主な取組みというのは各項目の説明文を代表するような取組みを例示しているもので、今、秋山委員からご指摘のありましたところについては、この36 ページで言えば、下から三つ目の「子どもの放課後などにおける育ちの場の整備」というところで表現しているつもりだったのですけれども、もう少しここを先ほど言った具体的な放課後児童クラブとか、放課後子ども教室とかというところを明示した方がいいというお話、ごもっともですので、具体的に明示をしていきたいなと思っております。

K P Iにつきましては、そういう、それぞれの取組みと連動した、そういった数値目標を掲げているところです。

そして「恋カナ！」のところでお話のありましたロールモデル。おっしゃるとおりで、私どもも認識しているのですが、ロールモデルという言葉自体は33 ページのところに仕事と家庭の両立に向けた説明文のところにロールモデルの欠如というようなところで表現はしているのですけれども。ただ、ここの「恋カナ！」の取組みのところにそういった言葉が必要、あった方が好ましいということのごもっともですので、こちらにもそういった表現は記載していけたらというように考えています。

牛山座長：はい、ありがとうございます。秋山委員のご指摘のあった点について、盛り込めるようにしていただけるということですので、今の2点について文言として入れていただくような形でやっていただければと思います。

加藤委員：まち・ひと・しごと創生総合戦略を拝見しまして、非常にバランスの取れた形でできているなど感じております。一つは自然増の話、社会増の話、それから高齢化、またその神奈川県さんとしての特徴としては未病を入れるという意味で、非常にバランスが良くていいのではないかなと思っています。

ここまで骨格ができていますので、あまりその中身についてというより、少し俯瞰的なことで幾つか議論させていただければと思っています。

一つは合計特出生率の話なのですが、希望出生率 1.42 という数字が出ております。ただ、人口ビジョンでは最終的に 2.07 まで持っていくのだという話になってですね、できればそのビジョンの中で 1.42 なのだけれども、基本目標 3 の施策をやることによって、将来的には 2.07 まで行くのだということを、2050 年に 2.07 という数字を求めますということが書いてある。これについて 1.42 というところをあまり目立たないようにしておいた方がいいのではないかという気がしております。2.07 まで最終的に持っていくのだという話を、ここは黒文字になっていますけど、その辺をもう少し重視する方がいいかなというのが 1 点目と、これはもうそのままでもいいかと思うのですが。

もう一つはやはり高齢化の中で、人口ビジョンで言うと 28 ページで、これから介護とか医療が非常に心配になってくるのだという話がかかれていて。それに対してまち・ひと・しごと創生総合戦略の中で介護というのは 42 ページの辺りでいろいろやっているのですが、もう少し具体的に介護とか医療について、病気の方を未病だけではなくて、そちらについても少し、もう少し書き込めることがないのかなというような気がしています。もちろん、地域包括ケアだとか、そういうことが書いてありますが、例えば介護人材をどうしていくのかとか、そういったことも非常に問題になってくるのかなと思います。

いずれにせよ、細かいところではあるのですが、非常にバランスが取れて、よくできているなど思っております。

あと、ここからはお願いなのですが、一つはビジョン 2 のところで、マグネット力の向上ということなのですが、K P I そのもの自体で、どのくらいの人を移住させるか、みたいな、そういう K P I がいるのか・いないのか、というようなところがなかったような気がしますので、具体的にどのくらい人を入れていくのだ、みたいな、そういう目標を立てなくていいのか。あるいはその中に外国人をどういうふうにして考えていくのかということも必要なのかなというのが 1 点目と。

それからこれは、細かい話なのですが、K P I そのもの自体が、なぜやらなければいけないのかというのを少し入れておくといいかなと。実は、ほかのところでもいろいろ議論があるんですが、K P I を入れていないケース。そもそも K P I とは何だ。ここは重要業績評価指標ですけども、これを入れることの意味は何なのか。これは一般の方にとってみると唐突に数値目標が出るので、もう少しここは丁寧に書いていただけるといいかなと思いました。

いずれにせよ以前と比べると非常にバランスの取れたいいものできているのではないかなと思いました。

牛山座長：はい。主に二つ要点をいただきましたが、その中にも幾つか内容に関わる

問題がございましたが、事務局としてここにつきましてはどのようにお考えになれますか。そしてまた今の少し書き加えていただきたいというご意見をいただきましたが、それについても併せていただければと思います。

二見政策局長：ただ今のご意見ですけれども、合計特出生率の2.07のところは、この人口ビジョンとこのまち・ひと・しごと創生総合戦略の対象にしている期間があまりにも違いすぎるということがあって、5年間の取組みの中でのまち・ひと・しごと創生総合戦略ですので、その辺、50年先の2.07というのを表記するのは少し、あまり明記していないといった考え方なのです。

そして介護の方も、今、介護の人材ですとか施設数をそろえるというのを、2025年を目標に、県の別の高齢者標準社会ということで進めているのですけれども、やはりこちらのまち・ひと・しごと創生総合戦略が5年間ということなので、そこまで書ききれないという、年限の違いがございまして。ただ、ご指摘の分かりにくさということではよく分かりませんので、少し検討させていただきますけれども、うまく反映できるかどうか、お約束はできないところです。

牛山座長：このKPIの説明。確かにいきなり県民の皆さんもKPIといって数字が出てきても分かりにくい面はあると思います。私もこれはどこかに説明した方がいいかと思えます。いかがでしょう。

中谷総合政策課長：はい。追加と、ご意見として、今のお話にありました。確かにKPI、一般の方からは、おっしゃるとおり、唐突感があるというのはいずれのところなので、このまち・ひと・しごと創生総合戦略の中に具体的に入れないと、あえてここで明示する意義ですね。そういったところを、解説を加えたいと思っております。

あと、数値目標に関連して、具体的に人を呼び込む人数みたいなものが数値目標としてないのかというご指摘もあったところなのですけれども、私どもも当然その部分は考えたところでして、なかなか数字を掲げるのは非常に難しいのですが、あえて言うと、この9ページのところに、まち・ひと・しごと創生総合戦略の、神奈川への新しいひとの流れをつくるということで、KPIではなく、もう少し大きな視点での数値目標をここに掲げているところです。本県、地域別に人口ビジョンで分析すると、三浦半島、県西地域、こちらは既に人口減少が始まっておりますので、東京都に持って行かれている人数もそれなりに多い部分で、まずはこの社会増減、マイナスに転じている人数を具体的に0に持っていきたいという、こういった形で一応人数的な目標を掲げさせていただいているという状況です。

牛山座長：では、そのKPIの説明はどこかに入れていただくというようなことをくんでいただければと思います。

石本委員：2点、質問させていただきたいと思えます。まず1点目なのですけれども、まずKPI等ですね、例えば33ページ、出前労働講座実施回数というふうに回数が指標

になっているかと思うのですけれども、やはり重要なのは理解度だと思うので、行った回数というよりも、例えば講座の前後で、例えば正しい認識ができているか、ちゃんとした理解力が付いているかどうかという数値に持っていきやすいのではないかなと思います。これは意識啓発の事業全てに言えるのではないかなという点です。

2点目なのですが、こちらは言葉の問題なのですが、一般の特に若い世代から見たら分かりにくい言葉があるかなと思います。例えば33ページの「ロールモデル」という言葉自体もあまり市民権をまだ得ていない言葉なので、こちらの定義も加えたらどうでしょうかという点と、あと「妊娠適齢期」、あとは「ワーク・ライフ・バランス」、「サテライトオフィス」、「テレワーク」。この辺りは意味を知らない若い世代も多いかと思うので、是非加えていただきたいと思います。

また、39ページなのですが、男性の育児休業取得率、そもそも男性が育児休暇を取ってもいいのだということさえ知らない人もいますので、この点に関して何か、何かを加えていただいて、言及していただければいいかなと思います。以上提案です。

牛山座長：はい、ありがとうございます。後段はもう少し言葉に定義みたいなものを、先ほど事務局より加えていくというご意見ですので、それについてはできる限り、どういふ点ができるか、拾っていくということで、ご指摘いただいた部分含めて考えていただければよろしいかと思うのですが。前段の33ページのKPIの目標値ですね。これについて今、ご意見いただきましたが、事務局、いかがでしょうか。

中谷総合政策課長：今ご意見いただきました点は、所管局につなげて検討させていただきたいと思います。

そして先ほど石本委員から冒頭でご質問がありました「若者」の定義につきまして、ここで回答させていただきたいと思います。「若者」は一般的に思春期、青年期の者と言われておりまして、具体的に年齢で言うと、12歳から18歳までが思春期。18歳から30歳が青年期ということなので、12歳から30歳辺りを指し示す言葉です。場合によっては、最近ではポスト青年期と言われている層もあるそうで、40歳ぐらいまでを含むこともあるやに聞いておりますので、そういった年代の方々を対象にしているということです。

牛山座長：はい、ありがとうございます。この「若者」も、もしそういうことが書けるようであれば注釈をつけておいてもいいかもしれません。それと今のKPIについてはどういう形に測れるかということで、課題もあると思いますので、所管の方と調整していただければと思います。

浦川委員：第2章、基本目標の1ですね。8ページ目です。二つ目に政策の基本的方向という形で国家戦略特区や京浜臨海部ライフイノベーションセンター、これは川崎のKING SKY FRONTとライフイノベーション、それから寒川のさがみロボット特区。これを言っていると思うのですが、下から5行目、「特に神奈川の潜在力を最大限に生かし、未病産業、ロボット産業、エネルギー産業、観光産業については、神奈川の成長産業の代表格として創出・育成し、強力に産業振興を進めます」。この中で、やはりこの未

病、ロボット産業、エネルギー、観光も含むと思うのですが、これをやはり支えるロジスティクス戦略について触れられていないので、今さら言うのも申し訳ないのですけれども。神奈川のロジスティクス戦略特区を作ってくださいとかということではないのですが、やはり昨今のEC（電子商取引）ですね、通信販売の。年率20%で伸びている。そういったものも含めまして、東日本大震災のときにこういった医薬品とかの倉庫が荷崩れを起こして出荷不能になってしまったのです。ですのでBCP対策（事業継続計画）を盛り込んだ最新鋭の、そういったこれらの神奈川県を生かす産業のサポートとしてのロジスティクスについて少し触れた方がいいのかなと思いましたが、プラスの意見としてお願いできればと思います。

牛山座長：はい、ありがとうございます。こういった内容を踏まえつつ、もちろん全体に関するロジスティクスの部分、文章に書き込むというご意見だと思いますが。この辺はいかがでしょうか。

中谷総合政策課長：はい。今いただいたご意見、検討させていただいて、できる限り盛り込んでいきたいと考えております。

大橋委員：今頃質問で申し訳ございません。20ページと、それから8ページに「外国人人材の育成・活用」という言葉が出てきています。12月に特区を活用して、家事代行のために外国人を受け入れるということを全国に先駆けて神奈川がやるという記事を拝見いたしました。そのことと関係がある内容と考えてよろしいでしょうか。

牛山座長：はい。大橋委員から今ご質問いただきましたが、その関係について事務局でわかりますでしょうか。

中谷総合政策課長：はい。今お話があったとおりです。年末の12月15日に、国から認定を神奈川県が受けたところ、東京圏国家戦略特別区域会議というのが国家戦略特区でございまして、おっしゃるとおり外国人を活用する一つの手立てとして、外国人家事支援人材の受入れを特例として神奈川県全域で行えるようになりました。これまでは家事支援という目的を持ってなかなか在留資格を直接受けて入国できなかったのですけれども、そういった目的を持って神奈川県にお越しいただけるような形に規制緩和がございまして、そういったところも今後まち・ひと・しごと創生総合戦略にも例示したら良いのだろうということで、前回、「家事支援などを行う」という言葉はなかったのですけれども、この言葉を付け加えて記載させていただいているところです。

牛山座長：はい、大橋委員のご指摘のとおりということなのですから、よろしいですか。

大橋委員：これはこのまち・ひと・しごと創生総合戦略全体の意見というよりも、私どもの働く仲間としての意見と受け止めていただければと思いますけれども、家事代行支

援として入国してくる外国人の方の、これは支援と書いてありますが、全国に先駆けての取組みということですので、是非きちんと安心して働ける労働環境が作られるように雇用契約等が行われるように県として見守っていただきたいと考えます。

牛山座長：はい、ありがとうございました。ご要望といたしますか、ご意見というふう  
に受け止めてよろしいでしょうか。

大橋委員：はい。

中谷総合政策課長：今、大橋委員がおっしゃったとおり、外国人技能実習制度があっ  
て、外国の方が今も来られているのですけれども、そういった雇用環境が、問題になっ  
ているということは十分私どもも認識しておりますので、当然制度設計するときにそこに配  
慮した形で考えていきたいと考えています。

平井委員：このK P Iについて、現状値と、実績値と目標値という形でそれぞれの項  
目が示されていて、数値目標としては大変分かりやすいものになっているのですけれど、  
全てにおいてその目標値の根拠と妥当性というのが、どこまで検証されてここに記載され  
ているのかというのが非常に大きな課題かなと思います。当然これは毎年のように評価検  
証して、進行管理していくことになるので、まずはこの時点でどんな根拠によって設定  
された目標値なのかということです。この目標値の中にはかなりの部分、市町村が具体的  
な施策として展開しなければ実現できない課題、指標も多々ございます。したがって、今、  
正に各市町村も総合戦略を年度内に策定すべく議論を重ねているわけですけれども、こ  
の連携、整合性と、それから設定値の妥当性、根拠、さらにはそれを検証していくための  
体制、手法。こういったものをかなり緻密にやらないと、単なる、いわゆる願望としての  
目標値ということに陥ってしまうので、その辺をしっかりと見据えてやってほしいなとい  
うことです。わたしは神奈川県市長会の代表で来ているので、市町村の政策とのすり合わ  
せ、整合性というのを是非とも図っていただきたいなと思っております。

牛山座長：はい。K P Iの設定というのは難しいところもあるかと思うのですけれど  
も、一つ一つそれぞれ根拠というか、理由はあるのだと思うのですが、基本的にどんな考  
え方で進められてきたのかということと、それから今、平井委員からお話がありました市  
町村との連携とか、そういった今後の課題についてもご意見いただきました。事務局とし  
てそれについて少しコメントいただければと思いますが、いかがでしょうか。

中谷総合政策課長：K P Iの妥当性というのは非常に難しいと、私どももこの数値目  
標を設定するときに認識しています。どこがベストなのかというところを私どもと所管部  
局で話し合いながら設定をしております。行政が設置する数値目標として、あまりにも高  
く実現が難しいものを掲げても、なかなか実現性が問われてしまいますし、逆に数値目標  
自体低めに設定して、相当高く達成しても妥当ではなかったというご指摘を受けるとい  
うことも想定されますので、そこは最大限県として努力しうるようなレベルに持っていこう

という認識の下で作業を進め、設定しているところです。

ただ、平井委員からもお話がありましたように、必然的にこれは1年後には、結果が出てきます。そのときにそういった妥当なのか、妥当でないのかというところが問われる、検証する仕組みがございますので、その検証する中で妥当でなければ数値目標自体も当然それに合わせて変更していきたいと思ひますし、場合によっては違うものに変えていくということも視野に入れて、検討させていただきたいと思ひます。

そして市町村との連携ですが、かねてからお話しているように、このまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するときに、県・市町村間行財政システム改革推進協議会の中に地方創生部会をセットしまして、こういった地方創生推進会議に今現在も傍聴していただいておりますし、実は本日この後、全市町村を入れた地方創生部会を、本日の地方創生推進会議を受けて開催する予定になっております。そうした中で、県のまち・ひと・しごと創生総合戦略をお示しして、市町村の方と整合を図るような調整も行っておりますので、そういったご懸念のないような形でうまく設定できたらというように思っております。

牛山座長：今後の、K P Iの進捗等の問題については、後ほどその他の議題で少し皆様に事務局よりご説明があるようですので、そちらでまたご議論いただければと思ひます。よろしいでしょうか。

平井委員：設定するのはすごく難しい、おっしゃるとおりなのですけれども、その後検証するためには、なぜこの数値を設定したのかという当初の根拠というものはやはり持っておいていただいて、実際に進行していくと、その設定したものが必ずしも達成できない状況というのが生まれると思ひます。そのときには、では当初の設定した根拠は、どこにどういふようなミスチクがあったのかと。それをどう修正すればこれがより良い方向に向かっていくのかということを検証できるようなバックデータがやはり提示されるべきだと思ひます。

それともう一つは、このK P Iの上位目標として、各目標の中に4項目ずつ数値目標を設定しているのではないですか。おそらくこれは、このK P Iに位置付けたものを具体化していくことによって、この上位の基本目標の目標値が達成されて、なおかつ人口減少がある種抑制される。社会増と自然増を図る対策に結びついて、合計特殊出生率が目指したところに近づいていくということだと思ひます。上位目標と下位目標との関係性を意識して、戦略と言う以上は重点化と、いわゆる選択と集中ということ意識して、やりながらここを重点化する、あるいはここはもう少し後押しするとか、そういう政策の出し入れをちゃんとやっていく中で議論して、最も目標に達成できる運営を心がけていったらいいのではないかと思ひます。それとあと我々も頑張りますので、市町村との連携を是非よろしく願ひします。

牛山座長：基本的にそういったK P Iの難しさ、それから実際の数字の根拠、それから連携、こういったことについてご意見いただきましたので、そういったことについてきちんと確認していくということだと思ひます。事務局、何かコメントないですか。

二見政策局長：ご意見どうもありがとうございます。今日、委員の皆様には非常に申し訳なかったのですが、事務的な作業として平井委員がご指摘されたような根拠ですとか、年次別にこれはどう推移していくのか、整理をしているところでして、今日の時点でそのバックデータは全部お見せできないような状態だったので、そこを出していないのですけれども、作業を進めております。そして県議会に向けて、まだ1か月ぐらいかかりそうなので、改めてその数字の根拠等になるものは、委員の皆様にもお示しをしたいと思います。

それから、それぞれが持っているKPIと人口ビジョンで目指している大目標と、この整合性についても目処があって設置しているものですが、少しこれでは分かりませぬので、来年からこれを、検証を始める作業があります。そのときにはもう少しこの辺の数値が達成されて、大目標に向かってうまく進んでいるのか分かるようなものを用意して、検証するような仕組みにしていきたいと考えております。今日の時点でそこまで至らなかったものですから、誠に申し訳ございませんでした。

牛山座長：はい、ありがとうございます。平井委員のご指摘のように、非常に進捗の管理が大事だと思うのですが、そういったことについて次年度以降の検証の中で、そういった具体的なもっと詳しい数値なども出しながら、目標を設定していくということだと思いますので、どうもご意見ありがとうございます。

富田委員：今、平井委員の市町村との連携についてもう少し、これはある意味希望的な話で恐縮なのですが、人口ビジョンとこのまち・ひと・しごと創生総合戦略を絡めるというのは少し時間的にも違うので、だから人口ビジョンに象徴されるように、国と県の2.07が10年違うとか、また市町村の連携、だから我々の湯河原町ではそれからまた10年違うとか、こういう違いが象徴的にあるように、県の中でのまち・ひと・しごと創生総合戦略に対する支援につきまして、やはり地域性というものがやはり自ずと出てくると思うのです。行政間の中での今までの、いわゆる連携やこのまち・ひと・しごと創生総合戦略についての県の今回のこの連携、静岡県側を含めての、3政令指定都市も含めての、何かそういうものが今後やはり支援という形で、各市町村というわけにはいなくても、ゾーンの程度柔軟性を持って支援体制が作られていくのか、また、そういうお考え方があるのか、この辺につきましては一つ、是非そうあってほしいという思いを込めての意見なのですが、ここは本当に平井委員と全く同じで、やはり地域性というものを幾つかのゾーンで分けていただいて、支援の体制というか、こういったものを是非体制を整えて行っていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

牛山座長：はい、ご意見ありがとうございます。おそらく具体的には48ページ辺りに書いてある市町村との連携ですね。この辺に今、富田委員がおっしゃられたような内容を多少でも書き込めるかどうか、あるいは考え方をお示しできるかどうかというようなことになるかと思うのですが。あとは今後の具体的ないろいろな取組みや、おっしゃられたようお願いということになるのかもしれませんが、この辺で少しそういったことを書き込む余地はございますでしょうか。

二見政策局長：はい。今、富田委員のご指摘のところ、私どももよく考えているところです。このまち・ひと・しごと創生総合戦略の中では書き込めないかなと思うのですが、具体的には平成28年度の当初予算ですとか、そういう中で具体的な支援策をそこにきちんと盛り込んでいますので、こちらの発表が2月10日以降となります。それを見ていただければ、十分な満足かどうかは分かりませんが、県としてはそこを考えております。全体的な支援のあり方、それからエリア別の支援というのは当然、特徴的に全部違いますので、エリアごとの支援の仕方というのも、その中でお分かりいただけるような予算になっていると思いますので、後ほど、ということでご了解いただければと思います。

牛山座長：具体的にはそういったことになるかなということですが、もし多少でも加筆できるのであれば、ご検討いただければと思います。

秋山委員：45ページ、46ページのところで、これは市町村の問題なのか、それとも神奈川の方で取り扱うべきなのかなというのがすごく難しい部分だと思うのですが、自助・共助ということで、KPIにも消防団の団員数の維持という形で書かれてはいると思うのですが、自助・共助、安心なまちづくりという意味で、はたして消防団の数なのか、あるいは町内会や自治会の加入率なのかなという部分で、この消防団の団員数にKPIを設定したのはなぜなのかなというのがお伺いしたい。

町内会・自治会という、自助・共助という意味で非常に大切な役割があると思うのですが、結構ここはいろいろな取組みが今、全国でなされていて。例えば沖縄とかだと町内会費が高いのですが、それで雇用を生みだしてまして、地域のことを真剣に考えている、もう仕事としてやってくれる人が沖縄は結構伝統的にあったりとか。神奈川でも武蔵小杉駅前、NPO法人さんがエリアマネジメントという形で町内会組織を担っていたりという、新しい取組みが神奈川でもありますので。消防団の団員数というのももちろん大切だとは思いますが、そうした町内会とか自治会の新しい取組みについて、神奈川としても全体で盛り上げていけるような形が取れると非常にいいのかなと思いました。

牛山座長：はい、ありがとうございます。消防団の団員数ということについて、関連してほかの指標もあるのではないかなというご意見ですが、いかがでしょうか事務局では。

中谷総合政策課長：はい。秋山委員から前回もその前の地方創生推進会議のときも、そういった取組みが必要だということで、私どもも議論して、受け止めているところです。そういった意味もあって、県としてできることということで、町内会・自治会ということにつきましては、前回も、なかなか市町村レベルの役割分担の中で、県の中で明示することは難しいという認識を示させていただいたのですが、ただ、そのお考えというのは非常にごもつものなので、県として何ができると考えたときに、一つの例として、今言った消防団ということに一つ行き着いています。

それ以外にも何かできないかということで、実は記載を追加したところがございませ

て、具体的には43ページのところですが、高齢になっても活躍できる社会づくりの一つの例示といたしまして、43ページの黒三角の「福祉コミュニティづくりを担う人材の育成・定着」というところの例示は、この民生委員とか児童委員など、そういった地域福祉の担い手の方々。こういったところがキーマンになって、そういった町内会・自治会を運営していくということが多いと思いますので、県としてこの人材の育成・定着は図っているので、具体的例示として挙げさせていただいておりますし。また加えて、45ページの個性豊かなまちづくりの推進というところの主な取組みの記載ですが、三つ目で「神奈川らしいコミュニティ・スクールの導入による地域の新たなコミュニティの核となる学校づくり」こういったところも一般の方が今は学校に参画して、そういった取組みを進めているということも本県として支援しておりますので、具体的に秋山委員の意見を受けて、追加で記載をさせていただいていると、そういった状況です。

牛山座長：今の点については県と市町村の役割分担も踏まえて少し書き込んでいただいたということですので、よろしくをお願いします。

平松委員：18・19ページに「県内産業の成長促進」として、中小企業関連の主な取組みが7つ挙げられています。この並べられた順番は優先順位ではなく、総括的に考えられるものを挙げたという理解でよろしいでしょうか。

ここでは、「経営革新の促進」が一番に記載されていますが、もし中小企業が困っていることに順位をつけるとすれば、中小企業の皆様と毎日仕事の関わり合いを持っている立場から申し上げますと、中小企業が実際困っているのは「必要とする人材とのマッチング」および確保だと思います。

他には「事業承継支援」などが上位に明記されると、中小企業が実際に困っている問題の順位として現実味のあるものになるかと思えます。

一方で「海外展開支援」については、話題にはなっていますが、海外市場が受け入れてくれないなど、いろいろな問題を抱えていて、実際にはそれほど行われていません。したがって、優先順位としては2番目ではないと思います。

順位なく7つ挙げられたものかとは思いますが、見る方のためにご配慮をいただけるならば、順番を入れ替えていただけるとありがたいです。

牛山座長：確かに見せ方の問題としてはそういうようなことが受け入れやすい順番であるかと思えますが。これは特段、順番になっている、優先順位を付けている現状ではないということかと思うのですが。見せ方の問題含めていかがでしょうか。

中谷総合政策課長：今のお考えは承知しましたが、私どもがどういう形で個々の取組みを並べているかということ、前段の項目ごとに説明文がございますが、その説明に出てくる順番が分かりやすいだろうということで、前回までその部分が、部局と調整して、作業が間に合わなかったので、順不同というような形になっていましたが、今回は最終案に向けて、この文章に出てくる順番にそろえたという、考え方がまず一つございます。

ただ、そういった形で優先的に並替えをとというようなお話がありましたので、限定的に

なるかもしれませんが、ここだけという形は持ち帰って検討させていただきたいと思っております。

牛山座長：ただ並べているというよりは、この文章の順番に分かりやすく並べているというご説明ですが、今の委員のご意見も踏まえて、少しご検討いただければと思います。

三崎委員：まず、まち・ひと・しごと創生総合戦略の8ページ目で質問があるのですが、基本目標の四角で囲まれている下の方で数値目標がありまして、県外・国外から立地した事業所数が2019年度125件とあって実績値がないという形なのですが、これは何を指しているのかよく分からなかったのですが。例えばどこかの年度を0として新たに125件という目標なのか、この辺りをもう少し説明をしていただけたらなというところと。

あと、参考資料の第5回神奈川県地方創生推進会議における意見として載っている中で、基本目標4(3)交通ネットワークの充実のところですね。その2番目に分科会でバスが重要という話をしたので、そこを入れてほしいという意見があったと思うのですが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の11ページに関してはバスという文言が見当たらず、バスを探してみますと、47ページのところに主な取組みの四つ目の黒三角のところで「鉄道や路線バス等の」ということで、ようやく出てきている印象でして、ほかに記載が見当たらないので。もし11ページにも政策の基本的方向の最後の2行のところですね。「各地域の交流と連携を支える道路網や鉄道網などの充実強化」というところを、例えば「道路や鉄道、バスなどの交通網」というふうに、バスを入れた方が、一つあるかないかで、少し印象が変わるのではないかなと思ったところとですね。

あと、40ページのところなのですが、主な取組みの四つ目ですね。「コグニサイズの展開など高齢者への未病対策<再掲>」とあるのですが、これ以前にコグニサイズという言葉が出てきていないような気がしまして。次のページをめくった42ページのところにコグニサイズで があって、解説が載っているのです。もしかすると順番としては40ページの方に で解説があって、次のところが再掲なのかなという、すみません、細かいのですが。

それから、先ほど少しお話の中に出てきたのですが、45ページの神奈川県らしいコミュニティ・スクールの導入というところと、KPIのところにも「コミュニティ・スクールに指定した県立高校」というふうに言葉が出てくるのですが、すみません、コミュニティ・スクールというのがどういうものを指しているのか内容がよく私は分からなかったのですが、これも解説が加えられたらな、と思っております。

それから、これは希望と言いますか、質問も含まれるのですが、資料3 県民参加(パブリック・コメント)などの概要なのですが、全部で意見数が126件あって、裏面には主な意見、幾つか書いていただいているのですが、もし反映区分の状況ごとに、例えばこんな意見がありました、というのがもう少し見てみたいなという思いがあるのですが、それを今後見ることが可能なかどうかというところと。

最後に、参考資料の第5回神奈川県地方創生推進会議における意見なのですが、基本目標4(2)持続可能な魅力あるまちづくりの1と2が全く同じ文章でかぶっているのですが、別の意見がもし載せられるようであればその方がいいかなと思いました。

牛山座長：はい、ありがとうございます。具体的なご指摘をいただきましたが、質問、それからご意見もいただきましたが、質問からお答えいただいていると思います。

中谷総合政策課長：まず、交通ネットワーク、バスの記載ですね。バスの記載については今、三崎委員からお話があったとおり、バスについて記載をするようにご意見をいただきました。47 ページに私どもとしては例示したというつもりでいましたが、冒頭の基本目標にもきちんと盛り込むべきというようなお話を受けたので、そちらの方は検討して、盛り込む方向で検討していきたいと思っております。

あと、前後して恐縮ですが、8 ページですけれども、数値目標のところ、県外・国外から立地した事業所数、実績値 0 というところで、実際ここは当然実績としてはあるのですけれども、ここで本県としてこの区分で統計を取り始めることにしたということで、実績がそういう意味でなかったもので、実際には当然あるのしょうけれども、統計として取れていなかったで、「 - 」を引かせていただいたという経過がございます。

あとは、コミュニティ・スクールの記載については、先ほど言いましたように、コミュニティ・スクールというのはその地域の住民の方が今、学校の運営について参画できるような仕組みが整っているのですけれども、そういった言葉の定義自体、おっしゃるとおり分かりにくいところがございますので、その注意書きは記載させていただく方向で検討させていただこうと思っております。

最後のご指摘は、ご指摘を受けたとおりに思いますので、そこは確認をさせていただき、県民意見の全容につきましては、一応今速報値でお示しして、作業中というところもございまして、最後整理できて策定の時には全部の意見についてホームページで公表していく方向ですでに検討しておりますので、そこで全容が分かるという状況になっています。

牛山座長：もう 1 個ございましたよね。再掲というのが。

中谷総合政策課長：はい。コグニサイズは順番が違うということで、そこはおっしゃるとおり検討していきたいと思っております。

牛山座長：前後するとか、そういうところは直していただいて、説明を加えていただいて、そしてバスについても前の方にも記載していただくということで、ご指摘ありがとうございました。

タパ委員：全体的に大変分かりやすくなってきましたので、良かったと思います。21 ページに K P I で三つ目に英検準 2 級以上というのがあるのですけれども、左側の主な取組みの中では、こういった準 2 級、英語がもっとできるようになるための取組みみたいなものが特に思い当たらないので、この 20 ページのグローバル人材の育成というところかなと思うのですけれども、この文言で、このグローバル人材というのは何を指すのかということもちょっと。上に少し「グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成」というのがあるので、こういったことかなと思うのですが。産業界はそういう海外企業とかと競争して、勝ち抜けるような人をグローバル人材と思っているかもしれない

ですけれど、もっと相手の立場とか文化とか、コミュニケーション力とか、そういったこともグローバル人材として必要なものなので、この左側の主な取組みのグローバル人材の育成というのは、この英語に資するものなのか、あるいはもう少し具体的に何か書いた方がいいのかなと思います。

全体にこの(6)就業の促進で、となっているので、もしが就業だったら は人材を育てるみたいなどころで、二つに分けたほうがいいのか。そこは少し検討していただけるといいかなと思います。

牛山座長：はい、ありがとうございます。タバ委員からご意見いただきましたが、何かコメントはございますか。

中谷総合政策課長：はい。今ご指摘を受けたところで、グローバル人材、私どもの思いとしては今、タバ委員からお話あったとおりで、グローバル人材というのは上の部分でお示して、その主な取組みを盛り込むとともに、KPIで一つの取組みとしてですけれども、それが全てではありませんが、代表例として、英検準2級以上の英語力を持った高校生の割合を上げていくというような形で考えておりました。

ただ、今のご指摘を受けまして、もう少しグローバル人材とは何ぞやというところは、この説明書きのところ、もう少し丁寧に分かりやすく明示をしていきたいと考えております。

牛山座長：はい、ありがとうございます。齊藤副座長いかがでしょう。

齊藤委員：すごくよくまとめていただいて、今の意見で更に良くなると思っています。少しだけもし言わせていただけたら、39ページの(3)働き方の改革の多様な働き方ができる環境づくり。これはそのとおりで、この文面もいいのですが、最後の行の「個人個人の実情にあった働き方ができるよう環境づくりを進めていきます」ですが、内容はこのとおりなのですが、もう少し掘り下げて言うと、多分制度というものを念頭に作っていただいているので、そういうような制度を作って、働き方がしやすい環境を作ることを考えていらっしゃると思うのですけれども、もう少し踏み込んでいただいて、「作ったその制度を利用することが当たり前だと考えるような会社風土が作られること」、このことが醸成されていく環境づくりもわかる表現を考えていただきたいと思っています。

牛山座長：はい、ありがとうございます。この点については。

中谷総合政策課長：今、齊藤委員からお話があったとおりです。私どもとして目指すところはそういった環境づくりを進めていき、当たり前のような風土を醸成していくというところを目指しておりますので、そういった観点から踏み込んで書けるように検討していきたいと思います。

牛山座長：先ほどご質問で出たビジョン3 未病の件。非常に多くのご意見をいただ

いて、先ほど局長から大変工夫をしていただいて、未病で「 」でくくって、そして、こうなっているご説明をいただきました。これはよく県で使う言葉、「未病を治す」という。しかし未病を治すという言葉を使うと、またこれも分かりにくいということに対して、大変県でもご苦労されて、言葉が使われていると思いますが。ただ、この「未病の取組み」と言ったときに、やはりここだけ見ると日本語として病気に取り組むというようなニュアンスの意味合いになってしまうので、どうかなと。しかし局長の説明を伺えばそのとおりだなというところもあって。ここはまた後ほど工夫ができるかどうか、皆さんのご意見を踏まえて事務局ともご相談していきたいと思いますが。

本日、この策定については最後の回ということになりますので、今日いただいたご意見、また反映する形、できるだけ反映する形で事務局とご相談しながらまとめていきたいと思いますが、当然、今日いただいたご意見を踏まえて、あとは事務局と私で調整させていただいて、最終案としていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは、今日も非常に活発なご意見をいただきましてありがとうございました。今日のご意見を踏まえて、最終案にしていきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

### 議題3 その他

牛山座長：それで、続きまして本日最後の議題になりますが、その他ということで、先ほども少し話題になりましたまち・ひと・しごと創生総合戦略策定後の進行管理ということで、事務局からご説明いただきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

(中谷総合政策課長から資料4について説明)

牛山座長：はい、ありがとうございます。先ほどのご議論の中でも平井委員から、進捗状況の管理、具体的にどうなのかということでご意見やご質問をいただきまして。これは今回非常に重要な進行管理のあり方についても示されているところですので、これについて今事務局がお話したように、この地方創生推進会議で検証作業も引き続き行っていたきたいということ。それから全員の方が引き続きということになりますが、少し集中的に議論するために要綱に基づいて部会を設けて進めていくというようなお話がございました。何かこの進捗管理のことにつきまして、事務局のご説明について、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。

よろしいですか。はい。では、今の事務局のご説明に、ご承諾いただけたということで、今後の進行管理については事務局案に基づいて、引き続き皆様をお願いしたいということで、よろしく願いいたします。

以上で議事は全て終了いたしますが、県から何かございますでしょうか。

### 3 閉会

二見政策局長：では、本日の会議、最後に当たりまして、一言御礼の言葉を述べさせていただきます。本日はお忙しい中をお集まりいただきまして、非常に活発なご議論をいただきましたことに、本当に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

また、本日を合わせまして6回の地方創生推進会議、特に第3回は分科会という形でたくさんのご意見をいただきました。こうしたこと、皆様のご尽力によりまして、今日人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略が策定といったものではございませんが、ほぼ策定というような形のところまでこぎ着けることができましたこと、改めて深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

今後はこの案を基に、今日いただいたご意見の修正をして、県議会へ報告をして、議会のご意見をいただくということです。大きな変更がありましたら、また少し考えたいと思いますけれども、県議会でご意見をいただいたもので、それで軽微な修正で済むことであれば、その方向で修正をして、3月の末には知事決裁をもって、この人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定というところに持っていきたいと考えております。

そして、それ以降でございますが、今、中谷総合政策課長から説明をさせていただいたように、このメンバーの皆様方で、ずっとちゃんと進捗していくかどうかフォローをして、またご意見をいただいくというようなことになります。また長いお付き合いになりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。本当に本日はありがとうございました。

牛山座長：はい。ありがとうございました。この神奈川県地方創生推進会議、6回にわたって開催してまいりました。本当に委員の皆様にはご多忙の中、お時間を割いていただきまして、また、非常に活発なご意見をいただきましてありがとうございました。先ほど事務局から、確認させていただきましたように、来年度はこの策定されたまち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証ということで、引き続き委員の皆様にはご尽力いただくこととありますし、また部会も今度設置して、議論していくということになりますので、どうか今後ともよろしくお願ひいたします。詳細につきましては事務局から追ってご連絡をいただくことになるかと思ひます。

以上で第6回の神奈川県地方創生推進会議、終了いたしたいと思ひます。どうもありがとうございました。

-----  
会議資料

- 資料1 神奈川県人口ビジョン(案)
- 資料2 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)
- 資料3 県民参加(パブリック・コメント)などの概要
- 資料4 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略策定後の進行管理について
- 参考資料 第5回神奈川県地方創生推進会議における意見